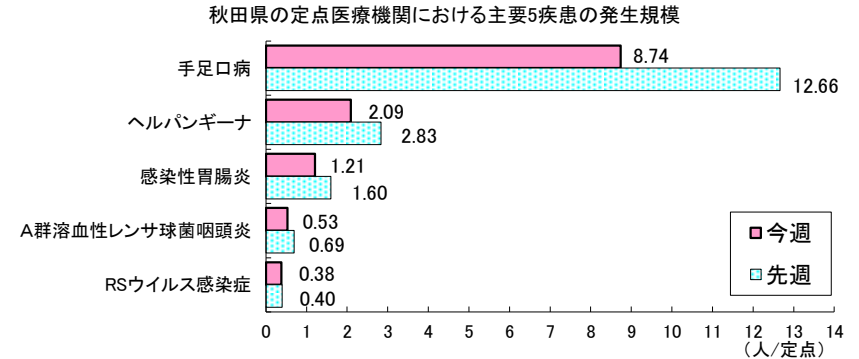




【第33週の発生動向】

<定点把握対象疾患(週報)・前週比>

- 手足口病は、県全体で31%減少しています。保健所別では、大仙、横手で増加、秋田市、大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、湯沢で減少しています。
- ヘルパンギーナは、県全体で26%減少しています。保健所別では、秋田中央、横手で増加、秋田市、大館、北秋田、能代、由利本荘、大仙、湯沢で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で24%減少しています。保健所別では、能代、秋田中央、由利本荘、大仙で増加、秋田市、大館、北秋田、横手、湯沢で減少しています。



発生報告

<五類定点対象疾患(週報)>

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減	第32週	第33週	増減			
RSウイルス感染症	0.40	0.38	↘	0.29	1.50	↗	0.25		↘										0.50	0.25	↘	2.67	0.67	↘	0.25	0.25				
インフルエンザ		0.02	↗		0.10	↗																								
咽頭結膜熱	0.09	0.18	↗		0.17	↗									0.50	0.75	↗				0.33		↘		0.50	↗				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.69	0.53	↘	0.29	0.83	↗	1.25		↘				0.33	0.67	↗	1.50		↘	0.50		↘	1.75	1.00	↘		1.67	↗			
感染性胃腸炎	1.60	1.21	↘	2.86	0.83	↘	3.00	1.50	↘	1.00	0.50	↘	1.00	3.33	↗	1.50	2.00	↗		0.50	↗	0.50	1.00	↗	0.67	0.33	↘			
水痘	0.09	0.03	↘	0.14		↘	0.25		↘		0.50	↗				0.25		↘												
手足口病	12.66	8.74	↘	15.57	14.67	↘	21.25	8.25	↘	20.00	6.50	↘	10.67	5.67	↘	5.50	5.00	↘	16.50	6.75	↘	8.25	9.00	↗	6.00	12.67	↗			
伝染性紅斑	0.20	0.03	↘	0.71	0.17	↘	0.25		↘													0.33		↘						
突発性発しん	0.29	0.12	↘	0.71	0.17	↘	0.25		↘	0.50		↘	0.33		↘		0.25	↗	0.25		↘		0.25	↗	0.33	0.33				
ヘルパンギーナ	2.83	2.09	↘	4.86	3.33	↘	1.00	0.25	↘	5.00	1.00	↘	3.33	3.00	↘	1.75	2.50	↗	2.00	1.75	↘	3.00	1.00	↘	2.33	6.00	↗			
流行性耳下腺炎																														
川崎病	0.03		↘																			0.33		↘						
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*								*	*				
流行性角結膜炎	0.29		↘	0.67		↘				*	*		*	*		*	*								*	*				
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎	0.13	0.38	↗										1.00		↘	*	*			2.00	↗				1.00	↗				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
 「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のデング熱が秋田市保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が由利本荘保健所管内から1人、百日咳が秋田市保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-32週 全国	秋田	33週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	13095	64	2
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	3		
	細菌性赤痢	54	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	1875	19	
	腸チフス	21		
	バラチフス	11		
四類	E型肝炎	324	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	292	7	
	エキノコックス症	13		
	黄熱			
	オウム病	11		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	1		
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	63		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
タニ媒介脳炎				
炭疽				

トピック

<デング熱の患者報告がありました>

第33週に秋田県でデング熱患者1名の報告がありました。デング熱は、デングウイルスを持つネッタイシマカやヒトスジシマカなどの蚊に刺されることで感染します。今年は、海外で例年以上に大きな流行となっており、国内でもすでに昨年1年間に並ぶ患者が報告されています(表)。夏休み等を利用して海外へ渡航された方、もしくはその周囲の方で蚊に刺された後に体調を崩したという方は、早めに医療機関を受診しましょう。

【発生状況】

東南アジアや中南米など、世界中の熱帯・亜熱帯地域で広く流行しており、国内ではこれら流行地への渡航者が帰国後に発症する輸入症例が、毎年200~300例ほど報告されています。2014年には、流行地からの感染者を発端とし、都内の公園を中心とした国内感染例が多発しました。県内では、これまでに2010年に2人、2014年に1人の患者が報告されています。

【症状】

デングウイルスを持つ蚊に刺されると、2~14日(多くは3~7日)の潜伏期間の後に38~40℃の発熱で発症し、激しい頭痛や関節痛、筋肉痛などの症状が現れます。通常3~5日程度で解熱しますが、入れ替わるように発疹が出現します。多くは後遺症もなく経過し、致死率はインフルエンザよりも低いとされています。ただし、4種類あるデングウイルスのうち異なる型に再度感染すると、重症化してデング出血熱やデングショック症候群を引き起こす場合もありますので、注意が必要です。

【予防】

ワクチンや特別な治療法は無いため、蚊に刺されないことが何より重要です。流行地では、肌の露出はできるだけ避け、虫除け剤を使用するなどして防御に努めましょう。

デングウイルスに感染しても実際に発症するのは20~50%とされています。しかし、発症しなかった感染者(不顕性感染者)からも蚊を介して感染は拡がりますので、帰国後も引き続き蚊に刺されないように十分注意しましょう。

表 2010年~2019年の全国におけるデング熱の患者報告数(2019年第32週現在)

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
244	113	221	249	341	293	339	245	201	200

類型	疾患名	(人)			
		1週-32週 全国	秋田	33週 秋田	
四類	チクングニア熱	16			
	つつが虫病	81	5		
	デング熱	200		1	
	東部ウマ脳炎				
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)				
	ニパウイルス感染症				
	日本紅斑熱	122			
	日本脳炎				
	ハンタウイルス肺症候群				
	Bウイルス病				
	鼻疽				
	ブルセラ症	2			
	ベネズエラウマ脳炎				
	ヘンドラウイルス感染症				
	発しんチフス				
	ボツリヌス症	1			
	マラリア	29			
	野兎病				
	ライム病	8			
	リッサウイルス感染症				
	リフトバレー熱				
	類鼻疽				
	レジオネラ症	1335	10		
	レプトスピラ症	6			
	ロッキー山紅斑熱				
	五類	アメーバ赤痢	534	4	
		ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	200		
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1235	11	1	
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)		51			
急性脳炎		574	4		
クリプトスポリジウム症		9			
クワイツフェルト・ヤコブ病		111	1		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		580	3		
後天性免疫不全症候群		727			
ジアルジア症		28			
侵襲性インフルエンザ菌感染症		363	2		
侵襲性髄膜炎菌感染症		29			
侵襲性肺炎球菌感染症		2222	12		
水痘(入院例に限る)		306	8		
先天性風しん症候群		3			
梅毒		4009	15		
播種性クリプトコックス症		94			
破傷風	76	2			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	47				
百日咳	10446	120	2		
風しん	2079	3			
麻しん	672				
薬剤耐性アシネトバクター感染症	18				



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
手足口病	-	秋田市(14.67)、大館(8.25)、北秋田(6.50)、能代(5.67)、秋田中央(5.00)、由利本荘(6.75)、大仙(9.00)、横手(12.67)、湯沢(6.25)
ヘルパンギーナ	-	横手(6.00)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	対象疾患	注意報	警報
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8
手足口病	-	5	2			4

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		